河馬

中島敦

青空文庫

河馬の歌

うす紅くおほに開(ひら)ける河馬の口にキャベツ落ち込み行方知らずも
ぽつかりと水に浮きゐる河馬の顔郷愁(ノスタルヂア)も知らぬげに見ゆ
この河馬にも機嫌・不機嫌ありといへばをかしけれどもなにか笑へず
赤黒きタンクの如く並びゐる河馬の牝牡(めすを)われは知らずも
水の上に耳と目とのみ覗きゐていぢらしと見つその小さきを

× ×

わが前に巨(おほ)き河馬の尻むくつけく泰然として動かざりけり
無禮(なめ)げにも我が眼(め)の前にひろごれる河馬の臀(しし)のあなむくむくし
臀(ゐさらひ)のたゞ中にして三角の尻尾かはゆし油揚のごと
これやこのナイルの河のならはしか我に尻向け河馬は糞(まり)する
事終り小さき尻尾がパシヤ〳〵と尻を叩きぬ動きこまかに
丘のごと盛上る尻をかつ／〃＼も支へて立てる足の短かさ
三角の尻尾の先端(さき)ゆ濁る水のまだ滴(したた)りて河馬は動かず

狸

春晝の靜けきまゝに暫くは狸の面の澁きを嘉す
藁の上に驚き顏の狸はもショペンハウエルに似たりけらずや
瞞すなど誰がいひけむ瞞されて身を嘆きなむ狸の面ぞ

黒豹

ぬばたまの黒豹の毛もつや〳〵と春陽しみみに照りてゐにけり
思ひかね徘徊るらむぬば玉の黒豹いまだ独り身ならし

マント狒

マント狒は身長三尺余、毛は長くして白色。純白のマントをまとへるが如し。但し面部と臀部のみ鮮かなる紅色（桃色に近し）を呈す。
銀白の毛はゆたかなれどマント狒尻の赤禿包むすべなし
マント狒の尻の赤さに乙女子は見ぬふりをして去ににけるかも

白熊

仰向(あふ)けに手足ひろげて白熊の浮かぶを見ればのどかなりけり
白熊の白きを見ればアムンゼン往(ゆ)きて還(かへ)らぬむかし思ほゆ

眠り獅子の歌

何時(いつ)見ても眠るよりほかにすべもなきライオンの身を憐れみにけり
埒(らち)もなき状(ざま)にあらずや百獣の王の日向に眠れる見れば
うと〳〵と眠れる獅子の足裏(あなうら)に觸れて見たしとふと思ひけり
海越えてエチオピアより來しといふこのライオンも眠りたりけり
うつゝなき夫(せ)の鼻先に尻を向けこれも眠れり牝(めす)のライオン
汝(な)が國の皇帝(みかど)もすでに蒙塵(もうぢん)と知らでやもはら獅子眠りゐる

仔獅子

獅子の仔も犬の仔のごと母親にふざけかゝるところがされけり
肉も未(ま)だ締らぬ仔獅子首かしげ相手ほしげに我が顔を見る
親獅子は眠りたりけり春の陽(ひ)に屈託げなる仔獅子の顔や

駱駝(らくだ)

生きものの負はでかなはぬ苦悩(くるしみ)の象徴かもよ駱駝の瘤は
やさし目の駱駝は口に泡ためて首差しのべぬ柵の上より

孔雀の歌

よく見れば孔雀の眼切(まなこ)れ上り猛鳥(まうてう)の相(さう)あり〳〵と見ゆ
印度(インド)なる葉廣菩提樹の蔭にしてひろげ誇らむこの孔雀の羽尾(はね)
いと憎き矜恃(ほこり)なりけり孔雀はも餌を拾ふにも尾をいたはりつ
六宮の粉黛(ふんたい)も色を失はむ孔雀一たび羽尾(はね)ひろげなば

縞馬

縞馬の縞鮮かにラグビイのユニフォームなど思ほゆるかも

ペリカンの歌

ペリカンは水の浅處(あさど)に凝然と置物のごと立ちてゐるかも
浴(ゆあみ)して櫛梳(くしけづ)りけむペリカンの濡れたる翼の桃色細毛(ももいろほそげ)
舶來の石鹸の香も匂(か)ひなむうす桃色のペリカンの羽毛(はね)
ペリカンの圓(つぶ)ら赤目を我見るにつひに動かず義眼(いれめ)の如し
長嘴(ながはし)の下の弛(たる)みも凋(しぼ)みたりふくらむものと我は待ちしに

禿鷲

プロメトイス苛(さいな)みにけむ禿鷲も今日は寒げに肩を張りゐる
アンデスの巖根嶮(いはねこご)しき山の秀(ほ)の鋭どき目かもコンドルの目は
ジャングルに生ふる羊齒草(しだくさ)えびかづら間なくし豹はたちもとほるを
短か手(で)を布留(ふる)の神杉(かんすぎ)カンガルー春きたれりと人招くがに

春の陽に汝(な)が短か手を千早ぶるカンガルーは耳を掻かんとするか
去年(こぞ)見しと同じき隅(すみ)に石亀は向ふむきたり埃(ほこり)を浴びて

山椒魚

山椒魚は山椒魚らしき顔をして水につかりゐるたゞ何となく

鶴

あさりする丹頂の前にしまらくは目守(まも)りたりけり心清(すが)しく
水浅く端然と立つ鶴痩せて口紅(くちべに)ほどのとさかの紅(あか)や

火喰鳥

火くひ鳥火のみか石も木も砂も泥も食はんず面構(つら)へかも

ホロホロ鳥

ホロホロとホロホロ鳥が鳴くといふ霜降色の胸ふくらせて

駝鳥

障碍(ハードル)も容易(やす)く越ゆべし汝が脚の逞しくして長きを見れば
何処(どこ)やらの骨董(こっとう)店(てん)の店(みせ)さきで見たることあり此奴(こやつ)の顔を
何故(なに)の長き首ぞも中ほどをギユウと掴めばギヤアと鳴くらむ

大蛇

うね〳〵とくねりからめる錦蛇一匹(ひとつ)にかあらむ二匹(ふたつ)にかあらむ

大青蜥蜴(とかげ)

口あけば大青蜥蜴舌ほそく閃々(せん)として青※奔(せいえんはし)る

再び　山椒魚について

山椒魚は山椒魚としかなしみをもてるが如しよくよく見れば

麒麟（きりん）の歌

黒と黄の縞のネクタイ鮮やけき洒落者（みやびをとこ）と見しは僻目（ひがめ）か
春の夜のシャンゼリゼェをマダム連れムッシュ・ヂラフがそゞろ歩むも
社交界の噂なるらむ麒麟氏が妻をかへりみ何かいふらしき
山高（ダービイ）も持たせまほしき男ぶり麒麟しづ〳〵と歩みたりけり
泥濘（ぬかるみ）を避（よ）けて道行く禮裝の紳士とやいはむ麒麟の歩み
隙もなき伊達男（ダンディイ）ぶりやワイシャツの汚れもさぞや気にかかりなむ

ハイエナ（鬣狗）

死にし子の死亡届を書かせける代書屋に似たりハイエナの顔は

カンガルウ

力無きばつたの如も春の陽に跳び跳びてをりカンガルー二つ
柵内の砂乾きゐて春風にカンガルー跳ぶ跳躍のさぶしも

熊

立上り禮する熊が月の輪の白きを賞でて芋を與へし
熊立てば咽喉の月の輪白たへの蝶ネクタイとわが見つるかも

象の歌

年老いし灰色の象の前に立ちてものうきまゝに寂しくなりぬ
象の足に太き鎖見つ春の日に心重きはわれのみならず
心はれぬ様に煎餅を拾ひゐる象はジャングルを忘れかねつや

× ×

子供一人菓子も投げねば長き鼻をダラリブラリと象徘徊ほる

花曇る四月の晝を象の鼻ブラリ〳〵と揺れてゐたりけり
徘徊(たもと)ほる象の細目(ほそめ)の賢(さか)し眼(め)に諦觀(あきらめ)の色ものうげに見ゆ
この象は老いてあるらし腹よごれ鼻も節立(ふしだ)ち牙は切られたり
象の顎に白く見ゆる毛剛(こは)げにて口には涎湛(よだれたゝ)へたるらし

鰐魚(わに)の歌

さきつ年アフリカゆ來し鰐怒り餌(ゑ)を食はずして死ににけりとぞ
故(ゆゑ)もなく處移されて知らぬ人の與ふる食を拒みけむかも
飢ゑ死(し)にし鰐の怒りを我思ふわれの憤(いか)りに似ずとはいはじ

蝙蝠(こうもり)

小笠原の大蝙蝠は終日(ひねもす)を簑蟲のごとぶら下りたり
晝を寢(ぬ)る倒(さか)さ蝙蝠よく見れば狡(ず)るげなる目をあいてゐにけり
手の骨の細く不気味(けうと)き蝙蝠はひねこび顔に何をたくらむ

穴熊

うつし世をはかなむかあはれ穴熊は檻(をり)の奥處(どこ)にべそをかきゐる
穴熊の鼻の黒きに中學の文法の師を思ひいでつも
穴熊の鼻の黒きが気になりぬ家に歸りて未(いま)だ忘れず

雉

春の陽を豊かに浴びてさ野(ぬ)つ鳥雉子(きぎし)は專(もは)ら砂浴びてゐる
家つ鳥鷄(かけ)の匂を思ひけり野つ鳥雉(きじ)の小舎の前にして

梟(ふくろう)

何處(いづこ)にか汝(な)が古頭巾忘れ來し物足らぬ気(げ)ぞ汝(なれ)の頭の
大きなるおどけ眼(まなこ)も陽(ひ)の中に見えぬと思(も)へば哀れなりけり

猪

藁屑と泥にまみれてぼやきつゝ猪(ゐのしゝ)の口うごめきあさる

カメレオン

日に八度(やたび)色を変ふとふ熱帯の機會主義者(オッポチュニスト)（青き魔術師）カメレオンぞこれ
蠅來ればさと繰出(くりいだ)すカメレオンの舌の肉色瞬間に見つ
長く圓き肉色の舌ひらめくやカメレオンの口はたと閉ぢけり
カメレオンが木に絹(まゆ)りゐる細き尾のくる〳〵と巻く巻きのおもしろ
カメレオンの胴の薄さや肋骨も翠(みどり)なす腹に浮きいでて見ゆ

鵜(う)の歌

豆州稻取海岸にて

山直ちに海に崩れ入る岩の上に飛沫浴びつゝ鵜は立ちてゐる
我が投げし石はとどかず崖下の氷雨(ひさめ)しぶかふ荒磯の鵜に
たちまちに海黒み來ぬ巖(いは)の上の鵜の聲風に吹消されつゝ

雨まじり吹く風強み岩の鵜は翼收めてこらへてをるも

鸚鵡の歌

まどろみゐてふと眼をあけし赤羅鸚鵡我を見いでて意外気なり
緋衣の大嘴鸚鵡我を見てまた懶うげに眼をとぢにけり
娼婦の衣裳を纏へる哲学者鸚鵡眼をとぢもの思ひをる
いにしへの達磨大師に似たりけり緋衣曳きてものを思へば
眼をとぢて日にぬくもれる緋鸚鵡の頬の毛脱けていた〳〵しげなり
緋に燃ゆる胸毛に嘴を挿入れて鸚鵡うつ〳〵眠りてゐるも
麻の實をついばむ鸚鵡かたへなる我を無視してひた食みに食む
嘴と嘴疾く動きつゝまつ黒の鸚鵡の舌はまるまりて見ゆ
麻の實の殻を猛烈に弾き飛ばす赤羅裳鸚鵡ひたむきなるを
年老いし大赤鸚鵡翼さきの瑠璃色なるが伊達者めきたり

小蝦の歌

――土肥海岸所見――

潮ひきし岩のくぼみの水溜り許多小蝦の影ひそみゐる
飴色に陽に透きとほる小蝦らの何か驚きにはかに乱る
幾多の小蝦隠れし砂煙やがて靜まり水澄みにけり
砂煙の砂の一粒一粒が音なく沈み蝦隠れけり

黒鯛の歌

――土肥釣堀にて――

巖陰はさ青に透り黒鯛の尾鰭白々と妖しく翻る
洞窟に光は入らず黒き水の湧くが如くに黒鯛群るる

仔山羊の歌

熱川の浜に一匹の仔山羊あり
海に向ひてしきりに啼く
その聲あはれなりければ

荒濱に仔山羊が一つ啼きてをりあはれ仔山羊は何を欲(ほ)りする
大島も黒雲がくり隠れけり仔山羊は何を見らむとすらむ
曇り日の海に向ひて立ち啼ける仔山羊は未だ角みじかかり
潮風にみじかき髯を吹かせゐる仔山羊の眼ぬち哀しと思ふ

青空文庫情報

底本：「中島敦全集2」筑摩書房
2001（平成13）年12月20日初版第1刷発行

※（）付きのルビは編集部の付したもので、編集部の方針により現代仮名遣いになっています。
※「機會主義者《オッポチュニスト》（青き魔術師）」の「（青き魔術師）」は底本では「機會主義者」の左側に注記されています。

入力：桑田康正
校正：小林繁雄
2005年1月20日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

河馬

中島敦

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/